

18年度発掘調査遺跡の紹介

延命寺遺跡

(上越市大字下野田字延命寺258 - 1)

延命寺遺跡は高田平野のほぼ中央部に位置し、飯田川左岸の沖積地に立地しています。上越三和道路建設に伴い5月から本格的な発掘調査を行っています。その結果、多くの遺構や遺物が出土しました。

現在確認できている遺構は、掘立柱建物、土坑、溝、畑の畝跡などがあります。土坑のなかには、祭祀具がまとまって出土したもの(1)や多くの土器が出土したもの(2)もあります。

祭祀具が出土した土坑は直径約100cm、人間の形をした人形や馬を模した馬形、先端を尖らせた斎串が出土しており、使用後に一括して捨てたものと考えられます。また、直径約210cmと大型の土坑からは、多くの土師器や須恵器が出土しています。須恵

器のなかには7世紀のものがあることから、この土坑の時期は7世紀と考えられます。これらの土坑の近くでは、土師器がまとまって出土しました(3)。特に甕の多くは口を下にしています。その一方で、碗は口を上にした状態で出土しています。この土師器がまとまって出土した地点は、竈や焼土は確認できなかったものの、土器の出土状況などから竈穴住居である可能性があります。このような遺構の検出状況や遺物の出土状況から延命寺遺跡は集落遺跡と考えられ、遺構の時期は出土する土器の年代から7世紀から8世紀初頭と思われます。

出土した遺物には土器と木製品があります。土器は土師器と須恵器で、7世紀から8世紀初頭のものが主体となります。土器は遺構からも出土し、特に土坑からは土器が投げ捨てられたような状態で出土する場合もあります。木製品では、火切り板なども出土していますが、祭祀具が多い傾向にあります。

今後の調査では、遺構の時期の把握とともに、周辺遺跡との関連に注意しながら、遺構の配置や変遷など集落構造を考えることが課題です。

(山崎忠良)



1 祭祀具が出土した土坑



2 土器の出土状況



3 土器集中地点

おおさかうえみち
大坂上道遺跡
(阿賀町大字西字大坂上道西1827ほか)

大坂上道遺跡は阿賀野川左岸の段丘（西山段丘）上に立地し、標高約84～88mを測ります。一般国道49号揚川改良道路建設工事に伴い、4月から8月の予定で発掘調査を行っています。

現況は、植林による杉林が広がっていますが、以前は畑地として利用されていたといえます。遺跡南側の高位段丘面では、磐越自動車道建設工事に伴い平成4・5年に発掘調査を行いました。今回発掘対象地点は、新潟市よりの地区（西地区）と福島県よりの地区（東地区）に分かれています。この度は、西地区について紹介します。

5月初旬に開始した本格的な発掘調査で、西地区全域に鹿瀬軽石質砂層の堆積（福島県の沼沢火山噴出物の二次堆積層で約5,000年前のもの）が認められ、その上層から縄文時代中期初頭の遺物が出土し、遺構を確認しました。調査区の地形は南西から北東方向に向かって傾斜し、東側の低位面で4筋の自然流路が検出されました。それに対し、遺構は西側の高位平坦面で検出されています。

遺構は土坑13基、性格不明遺構2基、焼土4か所などが検出されました。特に注目される遺構として、SK15は南北方向に長い楕円形に掘られており、南側に入れ子状の一括土器及び北側に大きな石が置かれています。検出状況から甕被葬の墓坑ではないかと考え、現在調査を進めています。このほか、石だけが置かれた土坑も確認されており、これらも墓坑ではないかと考えています。遺物は縄文時代中期初頭の土器、石器のほか、土偶、三角形に加工された石製品、石製円盤など注目される土製品・石製品が出土しています。

今後は西地区の下層、及び東地区へと調査を進める予定です。調査の進展に伴い、この遺跡の性格が明らかになってくるものと期待しています。

（桐原雅史）



遺 跡 遠 景



SK15



出土遺物

ろくたんだみなみ
六反田南遺跡
 (糸魚川市大和川字六反田)

六反田南遺跡は糸魚川市いといがわのほぼ中央部海岸付近に位置し、前川まえかわの形成する小扇状地上に立地する、東西約200m、南北約100mに及ぶ大規模な遺跡です。国道8号糸魚川東バイパス及び北陸新幹線建設に伴い、平成18年4月から本格的な発掘調査を開始しました。今年度は7月まで調査を実施する予定です。

現在進めている調査によって、古墳時代初頭から鎌倉・室町時代にかけて断続的に営まれた集落跡であることが明らかになりつつあります。発見された遺物には古墳時代初頭の土師器、奈良時代～平安時代の須恵器・土師器、室町時代～安土・桃山時代の陶磁器（青磁・瀬戸焼）・銭貨などがあり、遺構は溝・土坑・杭列・ピットなどがあります。遺構の年代については、堆積している土の特徴や出土遺物などを検討し、今後明らかにしていく予定です。
 (春日真実)



作業風景



土器(古墳時代)出土状況

ぜんなみなみ
前波南遺跡
 (糸井川市大和川字前波)

前波南遺跡は日本海に面した沖積低地に立地し、標高約4mを測ります。道路を挟んだ西側に六反田南遺跡が近接しています。国道8号糸魚川東バイパス建設に伴い、平成18年4月中旬から発掘調査を行っています。これまでの調査で、弥生時代～中世の遺跡であることが分かっています。

遺跡からは土坑や掘立柱建物の可能性のあるピット群が検出されていますが、多くの部分が自然流路で占められています。調査区の東側にある自然流路では、黒色土の上層から中世、褐色土の中層から古代、黒灰色砂や暗青灰色粘土の下層から弥生時代の遺物が主に出土しています。古代と考えられる層からは、少量の須恵器や土師器と共に、刀子鞘、鋤、田下駄、櫛、曲物底板、籠編物、斎串などの木製品に加え、大小の木材が多く出土しています。一方、弥生時代と考えられる層からは、壺などの土器の破片と共に、土錘どすいなどが出土しています。自然流路からは今後も新たな遺物の発見が期待されます。
 (株吉田建設 細井佳浩)



作業風景



鋤先出土状況

ようごんじ 用言寺遺跡

（上越市今泉字用言寺586ほか）

用言寺遺跡は、高田平野南西部を流れる矢代川^{やしろがわ}沿いの河岸段丘上に立地します。北陸新幹線の建設に伴い昨年度から発掘調査に着手し、今年度はその南側に隣接する範囲を4月から調査しています。

17年度の調査では、中世の掘立柱建物・溝・井戸^{ほったてばしらたてももの}などの遺構が見つかりました。また、12世紀中頃の井戸からは白磁^{はくじ}の碗^{わん}・皿6個体などがまとまって出土し、土器・陶磁器の編年研究において重要な資料になるものと期待されます。なお、当時の高級食器である白磁がまとまって出土したことは、埋め戻しの際に祭祀が行われたことを意味するようです。

今年度の調査においても、中世の井戸が見つかり、青磁^{せいじ}の碗^{わん}・盤^{ばん}、木製杓子^{しゃくし}・箸^{はし}、曲物^{まげもの}、漆器皿^{しっき}が出土しています。また、井戸の埋まり方を観察したところ、地山を掘り返した土で一気に埋め戻されていることがわかりました。新しい井戸を掘るときに出た土で、古い井戸が埋め戻されたようです。昨年度とあわせて21基発見された井戸は、同時に使用されたのではなく、掘り直しが繰り返された結果を反映しています。

（小川真一）



鎌倉時代の井戸

ぶざえもんうら 武左衛門裏遺跡

（新潟市白水3丁目34番地 ほか）

武左衛門裏遺跡は古墳時代の遺物が出土する遺跡として、昭和30年代から知られていました。遺跡は砂丘の南斜面からやや標高の低い部分にかけて南北約100mの範囲に広がっています。現況は標高の高い場所は果樹園、低い場所は水田となっています。今年度、国道49号亀田バイパス拡幅工事に先立ち発掘調査を行ったのは、遺跡南端部分にあたる標高の低い水田部分です。

調査の結果、縄文時代から近世までの遺物が出土し、遺構は土坑^{どこう}・溝^{くぼち}・不整形な窪地が検出されました。遺物は時期によって出土層位が異なるということではなく、同じ層から様々な時代のものが混じって出土するので、ある一時期の人々が残した遺物ではないと考えられます。おそらく、近世以降に標高の高い場所から流れ込んだか、あるいは客土した土の中に、複数時期の遺物が紛れ込んでいたのでしょう。検出された遺構の構築時期の特定は難しいですが、不整形な窪地はほかの遺跡で水田跡と考えられている遺構の形態に似ているので、もしかすると水田跡かもしれません。（土橋由理子）



近景（東から）

まつかげひがし
松蔭東遺跡
(岩船郡神林村大字牧目字松蔭1292ほか)

松蔭東遺跡は、日本海東北自動車道建設に伴い、平成18年4月から発掘調査を行っています。遺跡は海岸砂丘と牧目集落の存在する自然堤防にはさまれた沖積地に位置し、遺構確認面の標高は、約1.4mを測ります。今回の調査では、古代・中世の遺構・遺物が見つかっています。なお本遺跡の北東約200mには、主に15～16世紀の遺構・遺物が検出され、色部氏が居住した可能性も指摘されている牧目館跡が存在しています。

発見された遺構は、掘立柱建物1棟・井戸2基・溝・ピットなどです。掘立柱建物と井戸1基は近接して検出されていますが、共に遺物を伴っておらず、詳しい時期は判明していません。ただし周辺で古代の遺物がやや集中する傾向がみられることから、その時代の遺構である可能性も考えられます。またもう1基の井戸は、遺物は伴いませんでしたが、中世と考えられる遺構群の中に存在していることから、中世に属すると考えられます。またピットには礎板の存在するものも見られることから、建物を構成していたものも含まれていると考えられます。

包含層が削平されていたため、遺物は耕作土中から出土しています。遺物の時期は古代～近世であり、中でも古代及び中世が主体です。古代の遺物は須恵器・土師器です。中世の遺物は青磁・白磁・染付け・天目茶碗・珠洲焼・越前焼・瀬戸美濃焼や銭貨などです。青磁・白磁・染付け・天目茶碗は当時高級品であり、銭貨とともに中国から持ち込まれたものと考えられます。

本遺跡は、試掘調査の結果から本年度調査区の東側に集落の中心があると推定され、今回遺跡の外縁部を調査しているものと思われます。特に中世の遺構は、隣接した牧目館跡と関連したものとして推定されます。

(加藤建設(株) 青木 学)



SE10完掘状況(西から)

埋文インフォメーション

第13回遺跡発掘調査報告会開催のお知らせ

第13回遺跡発掘調査報告会を下記により開催いたします。今回は当事業団が平成17年度に発掘調査した遺跡のうち6遺跡について、スライドを使った調査報告を行います。また、この6遺跡を含む13遺跡について出土品及び写真パネルの展示・解説を行います。なお、当日は胎内市教育委員会の発掘調査報告及び出土品の展示・解説もあります。

事前の申し込みは不要です。皆様のご来場をお待ちしております。

- 日時 8月6日(日)
 - 会場 胎内市産業文化会館(JR中条駅下車徒歩20分、駐車場200台)
 - 日程

9:00～	開場
10:30～12:00	遺跡発掘調査報告(胎内市教育委員会)
	展示解説 第1回12:30～/第2回13:00～
13:45～15:45	遺跡発掘調査報告(野地、道下、西部、現明嶽、上野東、狐宮)
- * 詳細は当事業団ホームページをご覧ください。



平成 18 年度

発掘調査 遺跡



平成18年度は右表のとおり24遺跡で発掘調査を、また下表の1遺跡の整理作業を行います。「埋文にいがた」では、これらの遺跡を順次取り上げ、紹介していきます。

番号	遺跡名	所在地	関連事業名	予定 期間	時代	
1	岩ノ原遺跡	上越市向橋字岩ノ原	(独) 鉄道運輸	北陸新幹線	4～11月	古代
2	用言寺遺跡	上越市今泉字用言寺		〃	4～7月	古代・中世
3	姫御前遺跡	糸魚川市東寺町		〃	8～11月	古墳
4	深谷遺跡	糸魚川市田伏字深谷		〃	7～8月	旧石器(?)・縄文
5	山岸遺跡	糸魚川市田伏字山岸		〃	6～10月	古代・中世
6	六反田南遺跡	糸魚川市大和川字六反田ほか		〃	〃	〃
7	西部遺跡(04北区)	神林村大字牛屋字西部		国道8号糸魚川東バイパス	4～6月	縄文・古墳・古代・中世
8	西部遺跡(05北区北側)	神林村大字牛屋字西部		日本海沿岸東北自動車道	4～12月	古代・中世
9	中部北遺跡	神林村大字牛屋字中部		〃	4～9月	古代・中世
10	窪田遺跡	神林村大字南田中字窪田		〃	4～10月	弥生
11	松蔭東遺跡	神林村大字牧目字松蔭		〃	4～10月	古代・中世・近世
12	田屋道遺跡	神林村大字九日市字堂田		〃	4～10月	中世
13	宮の越遺跡	神林村大字新飯田字宮ノ越		〃	4～9月	中世
14	大館	村上市天神岡		〃	未定	古代
15	猿轡遺跡	阿賀町大字西字猿轡	〃	未定	中世	
16	大坂上遺跡	阿賀町大字西字大坂上道西	国土交通省	国道49号揚川改良道路	8～11月	縄文
17	近世新潟町遺跡	新潟市本町通9番町ほか	〃	〃	4～6月	縄文
18	城所道下遺跡	新潟市大字城所字道下	〃	国道7号万代橋下流橋	6～8月	近世
19	武左衛門妻遺跡	新潟市日水3丁目34番	〃	国道49号亀田バイパス拡幅	6～7月 (終了いたしました)	古代
20	西郷遺跡	新潟市茅野山3丁目2097-1	〃	〃	4～5月 (終了いたしました)	古墳
21	堅木遺跡	南魚沼市大字野田字堅木	〃	〃	6～11月	弥生・古代
22	延命寺遺跡	上越市大字下野田字延命寺	〃	国道253号八箇峠道路	9～10月	古代
23	屋敷割付遺跡	上越市大字戸野目古新田字屋敷割付	〃	国道253号上越三和道路	4～9月	古墳・古代
24	前波南遺跡	糸魚川市大和川字前波ほか	〃	〃	4～10月	古代
			〃	国道8号糸魚川東バイパス	4～5月	古代・中世

平成 18 年度 整理作業遺跡

遺跡名	所在地	関連事業名	調査年度	時代
寺前遺跡	三島郡出雲崎町大字乙茂字寺前	国道116号出雲崎バイパス	S63年/H1・2年	縄文後・晩期、古代・中世ほか

埋文インフォメーション

新資料展 展示品入れ替えのお知らせ

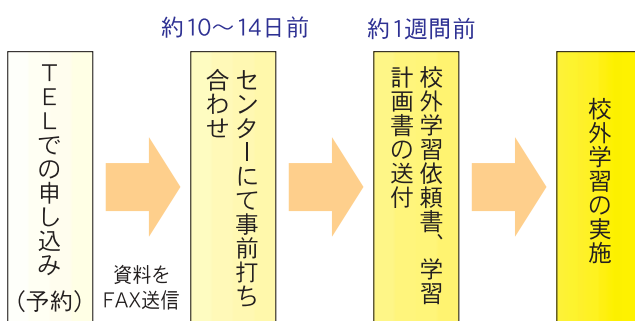
昨年度、長岡市と津南町の2か所で開催した「平成16年度発掘調査出土品展」資料のエッセンスを、下記によりセンターで展示しています。この機会に貴重な資料をぜひご覧おき下さい。

期間	遺跡名	所在市町村	時代
4 ～ 9 月	みちばた 道端遺跡	荒川町	古墳前期
	えぞえ 江添遺跡	胎内市	縄文後期
	ろくとまき 六斗時遺跡	胎内市	古墳中期
	かなや 金屋遺跡	南魚沼市	古墳前期
10 ～ 3 月	ひるづか 昼塚遺跡	胎内市	縄文晩期
	にしかわうちき 西川内北遺跡	胎内市	奈良時代
	にしかわうちみなみ 西川内南遺跡	胎内市	古墳前期
	みつまた 三角田遺跡	上越市	奈良～平安時代
	おおつば 大坪遺跡	阿賀野市	平安末～鎌倉時代



校外学習(センター見学、体験学習)の申し込みについて

毎年3,000人を超える小・中学生が、社会科や総合的な学習の時間の一環として当センターを訪れ、館内の展示品を見学したり、遺跡発掘の現状や遺物整理の様子を学習しています。また、体験学習（煮炊き体験・石器体験・火おこし体験・土器作り体験・文様付け体など）に取り組む学校もたくさんあります。当センターでの校外学習の申し込みは次のようになっています。



文様付け体験

- * 体験活動はいくつかの組み合わせが可能です。但し、土器作りは約2時間を要します。なお、当センターでは焼成は行っていません。
- * 施設の都合上、40名を超える場合は2グループに分かれて活動してもらうことがあります。
- * 天候により実施できない体験活動があります。

なお、事業団職員が遺跡から出土した土器や石器などの遺物を持って学校に出向き、授業のお手伝いをする「出前授業」も行っています。詳しくは当事業団ホームページまたは下記担当までご連絡下さい。

【担当】調査課普及班長

県内の遺跡・遺物53

かごみね
籠峰遺跡・出土品（昭和62年・平成13年 県指定）

遺跡所在地：上越市大字稻荷山新田字籠峰6-22

籠峰遺跡は高田平野の南、妙高山^{みょうこうさん}の北東緩斜面^{たぬいけ}（標高約330m）に位置します。農業用溜池建設工事に伴い昭和59年から61年にかけて、中郷村教育委員会^{なかごうむら}（当時）が発掘調査を行いました。出土した遺物は縄文時代前期から平安時代までの各時期にわたりますが、その中心は縄文時代後期から晩期にかけてです。この時期の土器は調査区全域から多量に出土しています。

昭和59年の調査で、遺跡のやや小高い地点から石棺状配石を含む多くの配石遺構が見つかりました。溜池の設計変更により一部を現状保存とし、それ以外を2年間かけて調査しました。その結果、遺構空白域^と（中央広場か？）を中心に、環状に土坑^{こう}や柱穴列^{ちゅうけつれつ}が配置されていることがわかりました。住居跡は遺跡の北西及び南西に偏在していました。また、石棺状配石は保存地区のものを含め約80基検出され、3か所の微高地に集中して分布していることがわかりました。この石棺状配石は、遺体を土坑に埋葬し、その上面に墓標として長方形に石を敷き並べたものと考えられます。

本遺跡で注目される遺物としては、土偶^{どぐう}（133点）・土製耳飾^{みみかざり}（1,089点）・土器片円板^{えんぱん}（2,713点）・石冠類^{せきかん}（66点）・石棒^{せきぼう}（242点）などの特殊遺物があげられます。これらの遺物は一般的に呪術^{じゆじゆつ}的性格が強い遺物と考えられています。これらのことから籠峰遺跡は、縄文時代後期から晩期にかけて営まれた集落跡で、居住域だけでなく墓域などの祭祀域^{さいし}を併せ持つことがわかりました。

（写真・資料提供：上越市教育委員会）

訂正：埋文にいがたNo.53に誤植がありましたので訂正いたします。

5 ページ18行及び25行

誤：旧紫雲寺潟 正：旧紫雲寺潟(塩津潟)



遺跡近景（南から）



土製耳飾・土偶 ほか



石冠・石棒

埋文にいがたNo 55

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
 〒956-0845 新潟市金津93番地1
 TEL(0250)25-3981 FAX(0250)25-3986
 e-mail: niigata@maibun.net
 URL: http://www.maibun.net
 印刷 阿部印刷株式会社